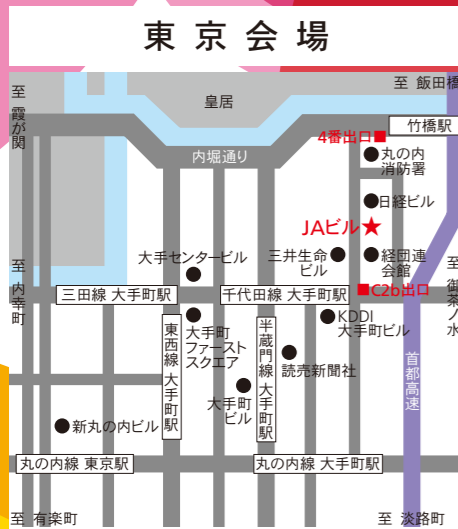


資産運用の歴史と実践



東京会場
JAビル カンファレンスセンター
 4階 401A
 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル
 TEL:03-3212-1912(代)

- 電車でのアクセス
 - ◎地下鉄千代田線・半蔵門線・三田線・東西線・丸の内線 大手町駅下車 C2b出口
 - ◎地下鉄東西線 竹橋駅下車4番出口
- お車でのアクセス
 - 首都高速道路：神田橋インターチェンジをご利用ください



名古屋会場
ミッドランドホール
 名古屋市中村区名駅4-7-1
 ミッドランドスクエア オフィスタワー5F
 TEL:052-527-8500

- 電車でのアクセス
 - ◎JR名古屋駅桜通口からミッドランドスクエア方面 徒歩5分
 - ◎ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分
- お車でのアクセス
 - 名古屋高速都心環状線「錦橋」出口より約6分 駐車場の収容台数123台
 - 中部国際空港(セントレア)から名鉄空港特急利用で28分



大阪会場
ヒルトン大阪
 大阪市北区梅田1-8-8
 TEL:06-6347-7111

- 電車でのアクセス
 - ◎大阪環状線・東海道本線・宝塚線 (JR) 大阪駅下車徒歩2分
 - ◎阪神電車 梅田駅下車 徒歩1分
 - ◎地下鉄四ツ橋線 西梅田駅下車 徒歩1分
- 駐車場のご利用
 - ◎24時間営業
 - ◎300台収容(高さ2.5mまで)

お申し込み方法

右記のいずれかの方法で、お申し込みいただけます。その際に、開催日またはタイトルをお伝えください(定員になり次第、締め切らせて頂きます)。また、ご案内のセミナーは基本的に機関投資家および資産運用に関連する方を対象とさせていただきます。それ以外の方からの申し込みはお断りさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

※今後、セミナー案内をご希望されない方は、誠にお手数ですが、セミナー事務局まで、お電話(03-6685-0683)か、E-mail (info@fromhc.com)にて、ご連絡をお願い致します。

こちらからお申し込み下さい

- ① <http://www.fromhc.com>
プロ投資家向け 資産運用情報サイト「from HC」
- ② FAX: 03-6685-0686
- ③ TEL: 03-6685-0683

本セミナーは、資本市場における種々の投資対象や投資に関する概念等について解説・検討することを目的としております。本セミナー終了後には金融商品取引契約の勧誘を行う場合がございます。金融商品取引契約においては、投資対象の価格変動等により損失が生じる恐れがあります。また、報酬や諸経費は、契約毎に投資対象の種類等が異なるため、予め表示できません。なお、契約毎にリスク及び報酬や諸経費は異なりますので、契約締結前交付書面等をご覧下さい。

HCアセットマネジメント株式会社

一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会加入

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-11 IP-Phone.050-3539-5013 Tel.03-6685-0681 Fax.03-6685-0686

3/19

火

東京

15:00~17:30
(開場14:30)

会場：JAビル カンファレンスセンター 4階 401A
 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル
 TEL: 03-3212-1912(代)

3/4

月

名古屋

14:00~17:00
(開場13:30)

会場：ミッドランドホール
 名古屋市中村区名駅4-7-1 ミッドランドスクエア オフィスタワー5F
 TEL: 052-527-8500

3/5

火

大阪

14:00~17:00
(開場13:30)

会場：ヒルトン大阪
 大阪市北区梅田1-8-8 TEL: 06-6347-7111

[人+産業金融=成長]
 成長を支える投資の原点へ

HC
 asset
 management

Seminar
 2019

ご挨拶に代えて

企業年金に企業の品位品格が現れる

『森本紀行はこうみる <http://www.fromhc.com/column/>』(2018.11.29)より

2018年6月1日に改正施行された「コーポレートガバナンス・コード」では、初めて企業年金への言及がなされましたが、その主旨からして、企業年金が企業価値の向上に貢献すべきことを前提にしたうえで、経営者に対して、より優れた取り組みを促すものと考えられます。

金融庁のいう資産運用の高度化には多くの要素を含みますが、「コーポレートガバナンス・コード」との関連でいえば、株式市場において株主が適正な行動をとることによって、投資先企業のガバナンス改革を促し、もって産業の発展を通じた経済の持続的成長を実現することが重要な課題であるわけです。そこで、その株主の有力なもの一つとして、上場企業自身の企業年金がとりあげられたということです。

この原則の中核は、「スチュワードシップ活動」にあるわけではなく、それを重要な要素として含みつつ、企業年金の資産運用が「従業員の安定的な資産形成」と「自らの財政状態にも影響を与えること」に対して、経営者の意識改革を求めたものと理解すべきでしょう。

逆に、企業経営者が企業年金の資産運用の重要性を認識し、その管理の適正化と高度化に努めれば、自然な流れとして「スチュワードシップ活動」の活性化が期待されるのです。なぜなら、「スチュワードシップ活動」の究極の目的は、投資先企業の価値の向上なのであって、それが企業年金の資産運用における中長期的な投資収益の向上につながるはずだからです。

そして、企業年金の資産運用が企業経営にとって重要であるからこそ、「コーポレートガバナンス・コード」は、具体的な行動として、そこに経営資源、即ち専門的能力を有する人材を投入すべきであるとしているわけです。いうまでもなく、ここには、経営資源を投じることで企業価値が上がる、即ち、その費用よりも創造される付加価値のほうが大きいという前提があります。

講師：森本紀行

講演内容

日本の資産運用は、年金資産運用の規制緩和とともに歴史を作ってきました。まず、信託銀行と生命保険会社による独占が続いた草創期、1990年4月の第一次自由化から、金融危機をきっかけとして、また、制度の危機も伴いつつ、一気に規制撤廃に進み、2000年前後に、現在のあり方が確立するまで、理論的(教科書的)な運用の枠組みが定着する一方で、2008年の世界的金融危機を挟み、定着したばかりの理論の常識すら揺らぎ始めた時期を振り返ります。

そして今、金融庁主導の産業金融と生活金融の一体改革が行われています。

資本市場強化のためには、資金調達を行う企業は、市場に対して厳格な責任を負わなくてはなりません。そこで、企業の行動を律するものとして導入されたのが、コーポレートガバナンス・コードです。

フィデューシャリー・デューティーで律せられた投資家は、国民の利益のために、資本市場において、コーポレートガバナンス・コードで律せられた企業と対峙し、公正な価格形成を保証し、市場を活性化して、安定した産業金融の基盤構築に努めるのです。

責任ある対峙は、対立ではありません。そこには、対峙しつつ、経済成長を通じた国民の厚生を増大という共通利益の創出のために、協働するという側面もあります。この高度な関係を律するものがスチュワードシップ・コードです。

この改革で最終的に目指されるのは、経済成長と国民の安定的な資産形成に対する貢献、徹底した顧客の利益の視点、金融機関の自主自律的な経営革新なのであって、これは金融の全ての領域に共通する経営課題なのです。

講演項目

●資産運用の歴史

- ◎創生から1990年4月の第一次自由化まで
- ◎1997年以降の金融危機、危機を機会へ
- ◎再び危機へ、オルタナティブの時代の到来
- ◎2008年、国際的な金融危機、投資の原点への回帰

●産業金融と生活金融の一体改革

- ◎「専らに受益者のために」
- ◎顧客本位と顧客満足
- ◎共通価値の創造
- ◎金融業態の垣根の外へ、金融の外へ



講師略歴

HCアセットマネジメント株式会社
代表取締役社長

森本紀行

三井生命のファンドマネジャーを経て、1990年1月当時のワイアット株式会社に入社。日本初の事業として、年金基金等の機関投資家向け投資コンサルティング事業を立ち上げる。2002年11月、HCアセットマネジメントを設立、全世界の投資機会を発掘し、専門家に運用委託するという、新しいタイプの資産運用事業を始める。東京大学文学部哲学科卒。